

創業者挨拶



創立50周年を皆さんと共に迎えられた事は有難い事です。これはひとえに皆が手を組んで頑張ったから出来る事と、この手・この指で感じ、お客様に喜んで頂いた事は有難い事で御座います。

コロナ問題以降、全てが変わって参りました。車もEVになり、各メーカーがどの様に変化するかわかりませんが、変化は必ずあると思います。

ONLY ONE THE EARTH
— かけがえのないアース電機 —
若手で頑張ってください。

代表取締役会長
小泉 信太郎

- ① 当社も設立当初は3名で立ち上げた小さな会社でした。半ば勢いで会社を立ち上げたものの、経営的な余裕はほとんどありませんでした。厳しさを目の当たりにして、設立後間もなくして仲間の1人が会社を去っていったため、結局残った2名で会社をスタートさせるを得なくなりました。
- ② 初めの頃は設備購入に回せる資金もなく、当時、ヤナセの担当課長であった方に「やる気はあるのですが、商売を続けようにも道具を買うためのお金がありません。」と相談したところ、必要な設備を貸与してもらえることになり、何とか商売を続けることが出来ました。また、当時のヤナセは手形決済でしたが、それでは資金繰がつかないので、小切手払いに変えてもらったということもありました。
- ③ とにかく無い無い尽くしのスタートだったので、現在の会社をみるとよくここまでやってこれたなあという思いが込み上げてきます。
- ④ 先日税務調査が入りましたが、会社が大きくなったこともあって、税務署の中ではかなり上のランクの調査官が3名も調査に訪れました。外部からみても、何かと注目されるだけの会社に成長したのだなあ実感出来ました。調査官には、会社の経緯や現況等の説明をしましたが、その話の中で非常に興味深げに「アース電機という社名はどのような背景から考えられたのですか？」との質問を受けました。なるほど、確かに事業内容からはイメージのつきにくい社名かもしれませんが、社員の中にはその由来を知らない人もいると思うので簡単にお話します。
- ⑤ アース電機の「アース」とは、辞書で調べると「地球、大地」と説明されていますが、私は「その大地にしっかりと足を踏みしめる」というような想いを込めて社名をアース電機とすることと致しました。幸いにしてその名にふさわしく今日まで着実に成長してまいりました。
- ⑥ 同業の会社が次々に消えて行く中、金も無し、人も無しの状態から今日に至ることが出来たのも、社員をはじめ多くの方々の協力があったからこそと感謝しております。

小泉信太郎会長 創立40周年時のお言葉
アーストピックスより抜粋



小泉信太郎会長（写真左）

「群れる」を大切に人材育成

アース電機 研修所「信真庵」でチームワーク磨く



「同期には種をまくんじやない、汗をかけ」まさに、われわれに課された言葉」と語る小泉会長

小泉信太郎会長 教育への思いを語る

従来の研修所をよりアース電機（株）が主催する。社会の発展と企業の成長に貢献する人材を育てる。アース電機（株）は、社会の発展と企業の成長に貢献する人材を育てる。アース電機（株）は、社会の発展と企業の成長に貢献する人材を育てる。

薄くなった「縁」を回生

初対面でも「合宿」で絆深まる

研修「合宿」をいって、社員は休日も関係なく、研修所に来て、研修を受ける。研修所は、社員が研修を受ける場所。研修所は、社員が研修を受ける場所。研修所は、社員が研修を受ける場所。



千葉県・姉ヶ崎に昨年9月設立した研修所「信真庵」

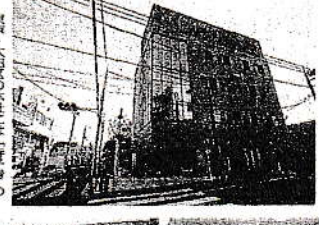
千葉・姉ヶ崎の「信真庵」



社員の話に耳を傾ける小泉社長（中央）



研修所「信真庵」は、社員が研修を受ける場所。研修所は、社員が研修を受ける場所。研修所は、社員が研修を受ける場所。



東京本社と「寺子屋」



研修を通じて社員はコミュニケーションを深める

種をまくんじやない、汗をかけ

「社員みんな顔見知り」仕事での段取り、連携にコミュニケーション図る

研修を通じて社員はコミュニケーションを深める。研修所は、社員が研修を受ける場所。研修所は、社員が研修を受ける場所。研修所は、社員が研修を受ける場所。

